

# 道路橋の予防保全に向けた有識者会議（第1回）

## 議事要旨

日 時：平成19年10月24日（水）

場 所：国土交通省11階特別会議室

出席者：田崎座長、池田委員、川島委員、城處委員、道家委員、西川委員、藤野委員、宮川委員

### 1. 主な意見

#### ○計画・設計の改善について

- ・橋の損傷は、橋齢との相関だけではないという認識が必要。
- ・管理しやすい橋や点検しやすい橋を、計画・設計に反映することが重要。
- ・設計・施工に総合評価方式を導入することが必要。

#### ○施工品質の向上について

- ・完成後の検査のみでなく、施工途中段階での検査を実施すべき。

#### ○点検システムの強化について

- ・橋の損傷内容は、ある程度国民にわかるような情報で広まることが重要。
- ・世間とコミュニケーションをとりながら、橋梁の評価を進めていく視点を取り入れることが必要。
- ・橋は国民の資産であるので点検が必要。

#### ○資格者制度について

- ・橋梁専門技術者の量と質についても、制度化の視点に入れて取り組むことが必要。
- ・診断士のような資格を取るよう、技術者に推奨することが必要。
- ・点検員の水準をそろえるため、質の一定化が必要。

#### ○情報の蓄積・共有について

- ・国民の理解を得るには現状がどうなっているか、将来10年、20年後はこうなるということを説明することが重要。
- ・ハザードマップのように点検管理の進み具合がわかり、点検したから安心なことをユーザーに知らせる仕組みが必要。

### ○専門技術の集積について

- ・技術力のある人を育てる、確保する、ノウハウを蓄積するというプロセスが重要。
- ・少ない技術者では3、4割を占めるCランク損傷を処理しきれないため、もう少し絞り込んだ上で専門技術者が処理するプロセスを整備することが必要。
- ・良質なエンジニアによる点検グループと、高度なエンジニアによる高度診断という、二つのバランスの確保が必要。

### ○システムのサイクル化について

- ・橋の維持管理は、地味な作業を長い時間行うことになるので（継続する）良い工夫が必要。

### ○地方公共団体への支援について

- ・市町村では橋梁技術者がほとんどいないため、そのケアの仕組みを考えることが必要。
- ・市町村の点検強化のために、点検制度を整備することが重要。
- ・高度診断センターを設け、地方自治体への指導ができる制度を作ることが必要。

## 2. その他

- ・しっかりした技術者には相応の報酬を払い、能力・知恵に応じた報酬を払うことでビジネスを成り立たせることが必要。
- ・総合評価方式においては、ライフサイクルコスト、維持管理のしやすさ等を入れ込むべき。
- ・橋は市民・住民のものであるとの認識向上と、橋への市民・住民のかかわりを増すPRが必要。

以上